

# 多自然川づくりの先駆的技術の導入支援

## ～多自然サポートセンターの取組みについて～

### Introduction of pioneering technology in nature-oriented river development ～concerning the activities of the Nature-rich support center～

自然環境グループ	研 究 員	末永 匡美
自然環境グループ	グループ長	森 吉尚
	主席研究員	吉田 邦伸
自然環境グループ	研 究 員	内藤 太輔
自然環境グループ	研 究 員	白尾 豪宏
自然環境グループ	次 長	都築 隆禎
水循環・まちづくり・防災グループ	研 究 員	阿 部 充

## 1. はじめに

近年、気候変動の影響により水災害が激甚化しており、これに対応するため大規模な河道掘削や樹木伐採を伴う河川改修事業が全国で実施されている。このような状況の中、豊かな河川環境を保全していくために、川の営みを活かして治水と環境を一体とした「多自然川づくり」の重要性がこれまで以上に高まっている。

(公財)リバーフロント研究所では、「多自然川づくりサポートセンター」として全国の多自然川づくりへの技術支援を継続的に実施している。本稿では令和2年度の活動内容を中心に最近の活動について報告する。

## 2. 多自然川づくりサポートセンターとは

「多自然川づくりサポートセンター」(以下「サポートセンター」という)は、現場における多自然川づくりの知見、優良事例の収集、収集した知見の全国発信・普及を行うことを目的として、平成20年2月から(公財)リバーフロント研究所が事務局となり運用されている。活動の目的は以下のとおりである。

- (1) 技術資料の作成・公表
- (2) 技術の普及・人材育成
- (3) 河川整備の現場からの問い合わせ対応
- (4) 川づくりのプロセスに関するサポート

## 3. 令和2年度の活動実績

サポートセンターでは、上述した近年の「多自然川づくり」を取り巻く状況を踏まえ、喫緊の課題である技術の普及を目的とし、これまでに蓄積してきた研究成果等を活用し、研修動画の作成・発信や、リバーフロント研究所ホームページにおける「多自然川づくり」に関するコンテンツを再整理するなど情報発信を大幅に強化している。

### (1) 技術の普及について

#### ①「多自然川づくり」普及動画の作成・発信

「多自然川づくり」に取組む人材の裾野を拡大するため、多自然川づくりの考え方、多自然川づくりの課題、優良事例、参考となる情報、取組み等について解説した教材動画を作成した(図-1)。



図-1 多自然川づくり人材育成プログラム  
(河川管理者・コンサルタント向け) ①初級編<sup>3)</sup>

本動画は、国土交通省水管理・国土保全局河川環境課と国立研究開発法人土木研究所自然共生研究センター及びサポートセンターの連携により作成し、現在は自然共生研究センター公式 YouTube チャンネルで公開・発信されており、300回を超える再生回数を記録している(R3.7.1現在)。

#### ②「多自然川づくり」技術情報の発信強化

現在、国土交通省をはじめとする各組織が、多自然川づくりに関する技術資料をそれぞれのウェブサイト上で公開しており、利用者は目的に応じ、適するホームページにアクセスする必要があることから、情報共有の方法に改善の余地がある。

そこで、サポートセンターでは「多自然川づくり」の包括的な情報共有を目的として、リバーフロント

研究所がこれまでに蓄積してきた研究成果や、国土交通省水管理・国土保全局が公開している技術資料を集約し、一覧性の高いコンテンツとしてホームページ上に公開した（図-2）。

国土交通省が実施している「多自然川づくり全国会議」等で公表されている事例では、中小河川については、平成20年に公表された「中小河川の河道計画の技術基準」等に基づく取組みが多くなされているが、直轄河川では局所的な取組みが多いことから、本年度の活動では、コンテンツ整理にあたり、「実践的な河川環境の評価・改善の手引き（案）（直轄区間全川の治水・環境上の特徴を俯瞰できる河川環境管理シートの作成マニュアル）」「大河川における多自然川づくり～Q&A形式で理解を深める～（直轄河道検討に役立つ最新の技術情報集）」等を収録・発信した。

多自然川づくり

近年、温暖化の影響で激甚な水災害が頻発しており、従来にも増して治水と環境を調和させた「多自然川づくり」の必要性が増しています。当研究所では、多自然川づくりの検討に関する豊富な実績・技術を生かし、河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮らしや歴史・文化との調和にも配慮し、河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境、並びに多様な河川環境を保全あるいは創出するための「多自然川づくり」の技術的な支援・情報共有を行っています。

- ▶ 大河川における多自然川づくり ～Q&A形式で理解を深める～ (R2.3) \*
- ▶ 河川環境管理シートの作成マニュアル  
「実践的な河川環境の評価・改善の手引き（案）」 (H31.3)
- ▶ 中小河川の河道計画の技術基準（概要）  
H20.3策定部分（川の骨格づくり）\* H22.8追加部分（水際構造）\*
- ▶ 多自然川づくりポイントブック目録明資料 (H22) \*
- ▶ 多自然川づくり参考事例集 (H21)
- ▶ 多自然川づくり優良事例集「多自然川づくりのすがた」 (H30) \*

\*：国土交通省水管理・国土保全局HPにリンクします。

図-2 令和2年度時点で集約した多自然川づくりに関する情報<sup>1)</sup>

③ウェブセミナーによる情報発信の準備

ウェブサイトによる情報発信をより効果的に実施するため、R3年度から「大河川における多自然川づくり～Q&A形式で理解を深める～」等の内容について、連続ウェブセミナーを実施することとし、実施方針について検討・準備を行った。令和3年6月には第1回目のウェブセミナーを実施し、300名を超える参加者があった（詳細は次年度報告による）。

④リバーフロント研究所のSDGsに関する方針の公開

国際連合の定めた行動目標である「SDGs」へ対応するためリバーフロント研究所の政策目標として、「多自然川づくり」をはじめとした取り組むべき課題と進むべき方策を検討・作成し、ホームページで発信した（図-3）。

- 主な取組み方針とその概要は以下のとおりである。
- ・自然の営みを活かした防災・減災
  - 多自然川づくり、グリーンインフラの調査・研究

を通して防災減災、豊かな自然環境の保全・創造の両立に取り組む。

- ・安心して水辺に暮らせるまちづくり
- ・まちと水辺に豊かな自然を
- 生態系ネットワークの調査・研究、生態学術研究会との連携を活かし、水辺の生態系の保護、回復などに取り組む。
- ・水辺に豊かな歴史・文化とうるおいを
- ・水辺と人をつないで広げて

○自然の営みを活かした防災・減災へ

 気候変動への 具体的対策	 1 貧困をなくす	 2 飢餓をゼロに	洪水など気象災害による被害の減少
 9 産業・イノベーションとインフラ	 15 陸域生態系	豊かな自然環境の保全・創出	

気象災害の激化に対し、川が自分を形づくる力など自然の営みも活用した防災減災と、豊かな自然環境の保全・創造の両立を目指します。

○流域治水での「グリーンインフラ」の活用など、自然の営みを活用した防災減災対策について技術的な検討を進め社会への実装に取り組めます。  
○「多自然川づくり」の技術と効果を広く社会へ伝え、治水対策と自然環境の両立し、豊かな景観を持つ川づくりに取り組めます。

図-3 リバーフロント研究所のSDGsへの取組み<sup>2)</sup>

⑤川づくりのプロセスに関する相談

上記の活動の他、従来行っていた問い合わせ対応としても、川づくりのプロセスに関する相談、技術的な内容に関する相談等への対応を行った。

4. おわりに

大規模な水災害の頻発を受けて、流域治水や緊急治水対策プロジェクト、グリーンインフラへの取組みが各地で始まっている中で、今後益々多自然川づくりに関する技術情報の重要性は高まるものと考えられる。

一方で、新型コロナウイルス感染症への対応から、新たな形態での技術情報の発信、技術指導の実施が求められている。

これらの状況を踏まえサポートセンターでは、より多くの方々へ広く情報を発信できるコンテンツ・ツールを充実し、今後も最新の多自然川づくりに関する知見、優良事例の発信・普及に努めていきたい。

<参考文献>

- 1) (公財) リバーフロント研究所:多自然川づくり  
<<http://www.rfc.or.jp/theme04-2.html>>
- 2) (公財) リバーフロント研究所:SDGsへの取組み  
<[http://www.rfc.or.jp/rfc\\_SDGs.html](http://www.rfc.or.jp/rfc_SDGs.html)>
- 3) 自然共生研究センターYouTubeチャンネル  
<<https://www.youtube.com/watch?v=4wvFK0-yalI>>